

初級日本語教科書における「する」と「やる」

大塚 望

要 旨

「する」は日本語の中で最もよく使用される単語の一つである。最もよく使われるということは、日本語を学習する者にとっては最もよく知っていなければならない単語であるということになる。初級レベルの日本語教科書（『みんなの日本語初級』『初級日本語げんき』）では「する」をどう提示し、何を教えているのか全文調査を行い、実際に「よく知る」レベルまでの学習ができるのかどうか考察した。その結果、基本的な例文は提示されていたが、その説明が無いまたは不十分なものがあつた（表参照）。一方、類義語「やる」は説明が全くなく、数例掲載されているに過ぎなかつた。以上の結果を日本語学習の更なる充実のための基礎資料としたい。

キーワード：初級日本語教科書、「する」、「やる」、意味・用法、文型

1. はじめに

日本語の動詞「する」は、われわれが日常最もよく使用する単語であることは論をまたない。これまでの大規模な語彙調査によってもそれは裏付けられている。例えば、総合雑誌の用語調査（国立国語研究所1957）では「する」が第1位であり、新聞語彙調査（同1971）でも動詞全体で「する」が第1位、語彙全体で第7位となっている。さらに、日本語教育のための基本語彙調査（同1984）では、「する」は教育すべき基本語彙として最高判定（40点）を受けている。以上のように、動詞「する」は最頻出単語であり、同時に、日本語学習者に教えらるべき最重要単語と言える。

本稿では「する」が初級日本語教科書でどのように教えられているのか¹⁾調査を行い、それが「する」の使用実態を十分に反映したものなのか、問題点や課

題を明らかにしたい。加えて、類義語「やる」についても調査を行う。「やる」は「する」のくだけた言い方とされ、日常会話の中で耳にする機会の多い動詞でもある。最頻出・最重要の「する」及びその類義語「やる」が、果たして初級の日本語教育において十分に教えられているのか、日本語教科書を分析することで考察していく。

2. 調査概要

初級レベルの日本語を教えるための総合的な教科書として、『みんなの日本語初級』と『初級日本語げんき』がある。本稿ではこれらを調査対象とする。

『みんなの日本語初級』は、『新日本語の基礎』（1990年初版）の姉妹編として1998年に初版が発行、2012年に2版の改訂を経ている。国内だけでなく海外でも広く使用されており、聞くこと、話すことを中心に、読むこと、書くことも教える総合教材である。全2巻・50課で初級の文法項目全てと、語彙約2,000語が学べる。副教材として『翻訳・文法解説』が各国語版で出されている。本調査では、『第2版本冊』全2巻の本文全てに目を通し、「する」と「やる」が用いられている文全てを抽出した。本文全てというのは具体的には、各課の「文型」、「例文」、「会話」、「練習」、「問題」、その「解答」、さらに「復習」、「副詞・接続詞・会話表現のまとめ」、本冊末尾の「索引」である。そして、何が学習のポイントになっているのか把握するため、『I（第2版）翻訳・文法解説英語版』の「Vocabulary」「Useful Words and Information」「Grammar Notes」を参照した。また、後半のⅡ²⁾は初版の「Vocabulary」「Reference Words and Information」「Grammar Explanation」を参照した。

『初級日本語げんき』は、1999年に初版、2011年に改訂版として第2版が出され、初級日本語を4技能「話す・聞く・読む・書く」にわたって学習する総合教材である。全2巻・23課で初級の文法項目と、漢字317字、語彙約1,700語が学べる。国内・海外の日本語コースで数多く採用されている。この教科書は、本冊の中に英語による文法解説があるため、調査においてはIとⅡ（全2巻）の本文と練習問題の解答及び索引に目を通し、同様に「する」と「やる」が用いられている文を全て抽出した。本文とは、「会話」「単語」「文法」「練習」「Culture Note」「Useful Expressions」である。

なお、両者から抽出したものは本文、練習、問題に出現した「例文」であり、実際にその単語の意味が用例として文の形になって示されているものである。学習者にとっては、単語レベルではなく文レベル・文型になってこそ使えるものに

なるため、どのように教えられているかを探るうえでは、文レベルのものを扱うのが妥当と考えたからである。

以上のとおり、代表的な初級教科書（総合教材）において「する」とその類義語「やる」は何をどこまで教えられているのか、またその説明や提示の方法を調査し、問題点や課題を明らかにしたい。

3. 「する」

「する」が最もよく使われる動詞であること理由は、「する」が様々な要素と共起可能であるという事実によるところが大きい。つまり、日本語教育の立場から言うと文型が多岐に渡るといことになる。「する」は名詞、形容詞、副詞などと連語を形成する。さらにその名詞だけでもガ格、ヲ格、ト格、ニ格と様々な格助詞を取り得る。そして、それら一つ一つに別の意味・用法が存在するというのが「する」の実態でもある。ここでは、「する」の文型ごとに教科書の扱いを見ていくことにしたい。

3.1. 名詞を補語にとる「する」

名詞（以下、N）を補語にとる文には「Nをする」「Nがする」「Nにする」「Nとする」「Nする」がある。以下、例を全て提示する。ただし複数回出現するのは、初出の文例を拾い、（ ）内に初出の課を表示する。

3.1.1. 「Nをする」

名詞をヲ格にとる文型は7つの意味・用法に下位分類することができる（拙稿2002）。

①動作（サ変動詞語幹・動詞連用形からの転成名詞、動作性名詞）

『みんなの日本語初級』（以下、『みんな』と表示）

(L16) 食事[を]して、うちへ帰って、それから日本語を勉強しました。男の人は週末に旅行をしました。国へ帰ってから、大学に入って、経済の研究をします。(復習D) 佐藤さんは今コピーをしています。(L18) 寝るまえに、お祈りをします。(L19) きのうからダイエットをしています。ゴルフの練習をします。(L23) 学生るとき、アルバイトをしましたか。(L24) もうパーティーの準備をしましたか。おばあちゃんは僕に古い日本のお話をしてくれます。(L28) 運転しながら電話をしないでください。(L38) 本を読んだり、犬の世話をしたりす

るのが好きです。(L40) どんな発表をするんですか。(L42) 貯金はしないんですか。みんなで祝いをお願いします。(L43) 彼女とけんかをしてしまった。(L44) じゃ、シャンプーをしますから、こちらへどうぞ。(L47) 女性は化粧をしたときと、していないときでは、ずいぶん変わるそうです。(L49) どなたがあいさつをしますか。

『初級日本語げんき』(以下、『げんき』と表示)

(L3) 電話をします。デートをします。(L4) たけしさんは土曜日にアルバイトをします。(L8) 私は日本語の勉強をしました。たけしさんは部屋の掃除をしました。だれが料理をするのが上手ですか。(L9) 毎日運動をする人(は元気です)。(L14) 男の人は三月十四日にお返しをしなきゃいけないんですよ。(L15) 握手をする。メアリーさんは日本でいろいろな経験をしようと思っています。(L17) 私の友だちの会社は休みが多くて、残業をしなくてもいいそうですよ。コンタクトを入れてから、化粧をします。(L18) たけしさんは歌を歌いながら洗濯をしています。(L21) 予約をしておきました。パーティーの準備をしなきゃいけませんね。社長が会議に出ている間に、昼寝をします。(L22) 高校の時、一人暮らしをする。今日は子供の誕生日なので、一緒に晩ご飯を食べる約束をしたんです。予習をすれば、授業がよくわかります。ピアノの練習をください。(読み書き編(以下、読) L8) アンケートをして、日本の会社員はとても大変だと思いました。(読 L9) 晩ご飯の後、いろいろな話をした。(読 L10) どんな生活をしていると思いますか。(読 L14) どんなアドバイスをしましたか。(読 L17) ヨーコとジョンはいろいろな平和活動をしました。平和のための活動をしています。(読 L18) よく朝寝坊をする。(読 L19) 奨学金の申し込みをしたいのですが、どうしたらいいですか。(読 L21) 安いアパートに住んで、めったに外で外食をしたり、旅行に行ったりしません。

この他に、サ変動詞語幹や動詞連用形ではないが、動作性の名詞として以下のようなものがある。³⁾

『みんな』

(L25) もう一度若くなったら、勉強して、いい仕事をしたいです。(L26) ボランティアをします。

『げんき』

(L4) インターネットをしますか。よく友達にメールをしますか。(L8) よく仕事をしますか。ホームステイをしています。(L11) ダイエットをする。(読 L18) 時々、引っ越しなどの力仕事もします。(読 L23) パンザイをしているからです。

②遊戯・スポーツ

『みんな』

(L6) わたしはサッカーをします。あしたテニスをしませんか。(L13) スキーをします。釣りをします。(L14) ダンスをしています。(L15) 公園で野球をしています。(L16) 朝ジョギングをして、シャワーを浴びて、会社へ行きます。(L17) きょう男の人はスポーツをしてはいけません。(L12) 生け花をします。(L40) 男の人は盆踊りをしてみます。(L48) 柔道をしたと言ったので、柔道教室に行かせています。

『げんき』

(L3) テニスをしませんか。スポーツをしますか。(L4) ゲームをしますか。バドミントンをしませんか。(L7 表現ノート) トランプをする。(L11) 釣りをする。(L13) サッカーをする。メアリーさんはゴルフをしますか。(読L15) 今年の夏、私は沖縄で初めてダイビングを試みました。(読L19) お兄さんとしょうぎをしたりしたことを今も思い出します。(読L19) 落語をする人を落語家と言います。

③催し物

『みんな』

(L6) あした友達とお花見をします。(L14) 今週の土曜日うちでパーティーをします。(L21) 今会議をしています。(L31) 結婚式はどこでしますか。(L40) 毎日漢字のテストをしています。ハンス君はいい成績ですよ。(復習J) どこで忘年会をするか、相談しているんです。(L49) あなたが話を聞きたい人に来てもらって、講演会をします。

『げんき』

(L8) たけしさん、あしたみんなでバーベキューをしませんか。(L15) うちでパーティーをしようと思っています。週末にキャンプをする。(L22) 私が先生だったら、学生に毎日テストをさせます。

④付帯

『みんな』(L22) 赤いネクタイをしている人はだれですか。

『げんき』(L17) ネクタイをしなきゃいけませんか。

着装や付帯を表す用法で「マスク／手袋／マフラー／湿布／カーテン／チャック／蓋／塩をする」などが日常会話でも使われる。これらは、「する」を使わな

い場合、ヲ格名詞によって別の実質動詞をセットで覚えなくてはならない。例えば、「マスクをつける」「手袋をはめる」「マフラーを巻く」「湿布を貼る」「カーテンを引く」「チャックをしめる」「蓋をかぶせる」「塩をふる」のように、動詞を多く覚えておく必要が出る。学習者の記憶の負担を減らすためにも、「ネクタイ」以外にもこれらをまとめて教えることは重要だと思われる。

⑤様子

『げんき』(L23) そんな悲しそうな顔しないで。もらったプレゼントが気に入らなくても、うれしそうな顔をしたほうがいい。

「長い髪／きれいな歯をしている」のように常にテイル形で用いられるもの、「派手な格好をする」のようにどちらでもいいものなど、ある人物の様子や状態を描写するのに使われる。これらは、別の言い方ができる(髪が長い、歯がきれい、格好が派手だ)ものもあり、必ずしも教えなくてはならないものではない。『みんな』には無かった。

⑥職業・役割

『げんき』(読L18) 今、家庭教師をしている。

これは、「エンジニア／弁護士／モデル／コックをする」などの表現を指し、自分の職業を述べる表現として話し言葉では一般的である。『みんな』には無かった。なお「役割・役職」の名詞がヲ格に来る「司会／会計係をする」などの例文はどちらの教科書にも見られなかった。

⑦病気・怪我

『みんな』(L32) やけどをしたんです。足にけがをしたんです。(L17 useful words and information) 下痢をします。便秘をします。

『げんき』(L12 Useful Expressions) やけどをしました。けがをしました⁴⁾。

病名などはヲ格に立つことはほとんどない(*風邪をする, *胃炎をする)ため、教科書に見られた使い方がその中心である。他に、生理現象「くしゃみ／せき／おならをする」が日常会話で使われるため、まとめて提示すると便利だろう。

⑧その他

「～もの」: 『みんな』(L29) 今の電車に忘れ物をしてしまったんですが……。『げんき』(L4) メアリーさんはいつ買い物をしましたか。

「～こと」：『みんな』(L35) 悪い友達と仲良くすると、悪いことをします。(L36) 何か特別なことをしていらっしゃいますか。『げんき』(読L10) おじさん、いいことをしましたね。(L22) 私は自分の子供に好きなことをさせてあげるつもりです。

連語：『みんな』(L32) 無理をしないほうがいいですよ。『げんき』(読L21) 私はそんなぜいたくができません。

この他に『みんな』には「(L6) うちで宿題をします。」、『げんき』には「(読L23) 笑ってVサインをしています。」が見られた。

以上のような「Nをする」についてどのような説明がされているだろうか。

・ Nをします L6 (『みんな 翻訳・文法解説』 p44)

A fairly wide range of nouns are used as the objects of the verb します, which means that the action denoted by the noun is performed. Some examples are shown below.

- 1) Play sports or games サッカーをします トランプをします
- 2) Hold gatherings or events パーティーをします 会議をします
- 3) Do something 宿題をします 仕事をします 電話をします

・ します [ネクタイを～] put on [tie] L22 (同 p136)

当該の名詞が「～をする」の形を取れる場合は、語彙表にそのことが補足されている(例, L9 アルバイト (～をします: work part-time))。しかし、一方でサ変動詞の語幹が名詞として使われ「Nをする」になることについての説明はない。例えば, L15 に「研究します」が初出するが、「研究」が名詞として使われ「研究をする」の形になることについての言及はどこにもない。そして, L16 に「国へ帰ってから, 大学に入って, 経済の研究をします」という文例がいきなり出てくる。同様に, 「コピーします」が L14 に初出するが「～をする」になることは書かれておらず, 数課後のまとめ(復習 D)に説明がないまま「佐藤さんは今コピーをしています」が出現する。

「Nをする」になるサ変動詞を挙げてみると, 「買い物する, 食事する, 散歩する, 結婚する (L13)」「コピーする (L14)」「研究する (L15)」「見学する (L16)」「残業する, 出張する (L17)」「運転する, 予約する (L18)」「掃除する, 洗濯する (L19)」「修理する (L20)」「説明する (L24)」など数が多い。一方, 「Nをす

る」の形をとれないものは「心配する (L17)」だけである。このことも踏まえ、「名詞として用いられること」「『～をする』の形で用いられること」を加えてもいいのではないかと考える。

また、「準備」はL24に名詞として出現し「～[を]します: prepare」と説明があるが、サ変動詞の「準備する」は出てこない。「電話」は名詞がL3に、「電話する」がL16に出てくるがいずれも「Nをする」になることの説明がなく、説明がないままL28に「運転しながら電話をしないでください」が出てくる。先の「研究する」「コピーする」の例も合わせて整合性に欠ける。つまり、『みんな』では、サ変動詞語幹が名詞として導入されている場合は、「～をする」の形になることが教えられている(全てではない)が、サ変動詞として導入されている場合は、その語幹が名詞になる可能性やそれを用いた「～をする」の存在については教えられていないということである。一方で、「～をする」の形になるものがサ変動詞として使われる可能性についても説明されていない。学習者が混乱する可能性がある。

『げんき』では「表現ノート」という補足説明の項に次のように出てくる(一部省略)。

・～する Most irregular verbs are compounds of nouns and the verb する . If you have learned an irregular verb, therefore, you have also learned a noun.

勉強する (Verb) 勉強 (Noun) ex. 日本語の勉強は楽しいです。

Some of these nouns can be used as the “object” of the verb する。

私は日本語の勉強をしました。 Compare: 私は日本語を勉強しました。

・する to wear small items (necktie, watch, etc.)

サ変動詞語幹が名詞として使えることを指摘しているために、それぞれの単語について「～をする」になることを説明しなくて済んでいるわけだが、一方で、それが無いためにサ変動詞語幹の全てを名詞と誤解してしまう可能性がある。例えば、「がっかりする (L23)」の「がっかり」は当然ながら名詞ではない。

どちらの教科書も「Nをする」の説明が不足している。ところが、その用例の幅は広く、学習者にとっては「簡単に見えるのに難しい」ということになりかねない。したがって、「Nをする」が多様な用いられ方をすることをまとめて説明する箇所が設けられるべきだと考える。「する」は意味的には大変シンプルなもの

のであるが、それ故に、どこまで使えるのかその広さと限界について知っておく必要がある。また、話せなくても聞く機会の多い「する」の用法がわからないということがないように、説明はNの種類によって示すことが必要だと考える。ただし、上記7つでは細かいので、教育的には以下のようにまとめて示すことを提案したい。

1. 「動作」をする
2. 「遊び・スポーツ」をする
3. 「催し物・会合」をする
4. 「身に着けるもの」をする
5. 「様子・身体部位」をする
6. 「役割・職業」をする

1には「～もの（買い物、忘れ物、書き物、調べ物）」「～こと（楽しいこと、次のこと、頼まれたこと）」も入る。外来語に「をする」をつける「メールをする」「ネットをする」などは造語力の強いところである。サ変動詞語幹、動詞の連用形など多くの名詞が含まれるため、初級学習者にはその広がりを示し、中級以降その限度に注意するよう指導するのはどうか。4は「ネクタイ」の他に、「マスク」「ネックレス」「指輪」など身近なものの例が入ってもいい。6は「家庭教師」の他に、職業や役割を表す「司会」「受付」「幹事」「モデル」「先生」などがあってもいい。

3.1.2. 「Nがする」

「Nがする」は、ある感覚を表現する文で、Nには「味、におい、音」などの知覚、それらの具体化した「寒気、頭痛、めまい」などの症状、「～気」「～感じ」などの雰囲気がある。意味・用法を以上の3つに分類し、教科書を見ていく。

①知覚

『みんな』

(L47) にぎやかな声がしますね。いいにおいがしますね。変な味がしますね。変な音がしますね。(復習L) 隣の部屋で音がします。

「声、におい、味、音がする」が教えられている。これらの名詞は修飾語句を伴うことが多く単独で使うと非文になるものもある（*においがする、*味がする）。ところが、『みんな』には一例だけ「隣の部屋で音がします」という修飾語句の無いものがあった。これは、「隣の部屋で何か（の）音がする」「隣の部屋で

物音がする」でも同様の意味を表せる⁵⁾。一方で修飾語句が必要、一方で修飾語句が不要というのは学習上難しい。

ただし、厳密には、どのような知覚かを具体的に示さない場合や否定文では、修飾語句を伴わない方が自然である。例えば、「あれ？音がする」「これにおいがしないよ」「全然味がしない」など。知覚を表す文の詳細な分析は本稿の目的ではないため別稿に譲るが、初級の日本語教育ではわかりやすさを優先し「知覚を表現する」文として、修飾語句を伴った例だけにすることが望ましいと思われる。

『みんな』の説明は以下の通りである。修飾語句を伴わなければならない点が述べられていないことは問題である。『げんき』には例も説明も無かった。

・ 声／音／におい／味がします L47 (『みんな 翻訳・文法解説』 p135)
変な音がしますね。

A phenomenon that is perceivable by the sense is described by using ～がします. Expressions in this category are こえがします, においがします, and あじがします. All these expressions mean that these things have been perceived or sensed regardless of the speaker's intention.

②症状

『みんな』(L17 useful words and information) 吐き気がします。寒気がします。めまいがします。

『げんき』(L12 useful expressions) めまいがします。

どちらも特に説明はない。この他には「悪寒, 頭痛, 耳鳴り」などがあるが、「頭が痛い」など別の表現もあるため、初級はこれで十分だと思われる。

③雰囲気

どちらの教科書も教えていない。例えば「彼は怒っている気がする」「ここは嫌な感じがする」などは、別の初級文法で同じことが言える（彼は怒っているようだ、ここは嫌だなと思った）ので、必ずしも教えなければいけないことはないだろう。

以上、「Nがする」は現状あまり教科書では取り上げられていないが、知覚と症状の用法をまとめて提示すると学習者にとっては使える表現を学べる。

3.1.3. 「Nにする」

「Nにする」の意味・用法は、「選択・決定」と「変化」の2つに分類することができる（拙稿 2013）。分類ごとに教科書を見ていく。

①選択・決定

『みんな』

(L44) 飲み物は何にしますか。ビールにします。ショートにしたいんですけど……。晩ごはんはカレーライスにします。晩ごはんはてんぷらにします。出発はいつにしますか。18日にします。飛行機は何時の便にしますか。11時の便にします。ホテルはどこにしますか。「ホテルひろしま」にします。部屋はシングルにしますか、ツインにしますか。食事は和食と洋食とどちらにしますか。和食にします。(復習 K) 今晚のおかずはすき焼きにしましょう。じゃ、それにします。

『げんき』(L15) 昼ご飯は何にする？

②変化

『みんな』(L44) 水の量を2ばいにします。ごはんが多いので、半分にしてください。今週は都合が悪いですから、来週にしてください。

『げんき』(L17 Useful Expressions (床屋/美容院で) ポブ・マーリーみたいな髪型にしたいんですが。

・ Nにします L44 (『みんな 翻訳・文法解説』 p117)

Nにします expresses selection and/or decision.

部屋はシングルにしますか、ツインにしますか。

会議はあしたにします。

『みんな』では②の変化を「形容詞する」の変化の用法とまとめて説明している。また『げんき』では例文は1例ずつしかなく、説明もない。単語の訳に「する to decide on (an item) (itemに)」とあるだけである。この用法は話し言葉ではよく使われると考えられるため、『みんな』に例文が多いことは妥当と考える。変化の用法は、他に「魚を刺身にする」「クッションを枕にする」「スカーフをリボンにする」「娘を医者にする」などの用例が考えられる。

3.1.4. 「N とする」

この文型には「試験日を11日とする(決定)」と「このお酒はトウモロコシを原料としている(同定)」の用法がある(拙稿 2013)が、教科書には一例も見られなかった。前者は硬い表現で書き言葉であり、後者も別の易しい表現が可能(このお酒はトウモロコシが原料だ)であるため、初級レベルでは必要ではないだろう。

3.1.5. 「N する」

『げんき』(読 L20) 一枚三百両もする皿だったので。

説明は、語彙表に「[する] to cost」とあるだけである。『みんな』には無かった。

この他の用法に、「時間」の経過を表す「3分するとカップ麺ができて上がる」「1時間したら戻ってきて」などがあり、条件節の中で用いられる。実質動詞の「経つ」を使うより話し言葉では使いやすい表現であるため、「値段」と「時間」を教えると便利である。説明は、値段や時間を表す名詞に直接「する」が後接すること、とりたて助詞の「も」を伴って強調や驚きの意味が加わることを示すといいたいだろう。

3.2. 形容詞と共起する「する」

形容詞と「する」が連なって使われる「(イ形容詞く)する」「(ナ形容詞に)する」は「変化」を表す。どちらの教科書にも文法説明があり、また用例も多い。基本的な学習項目として教えられていることがわかる。以下、例文は初出のものを出す。

『みんな』(L44) ズボンを短くしてください。もう夜遅いですから、静かにしていただけませんか。

『げんき』(L17 Useful Expressions 床屋/美容院で) あまり短くしないでください。(L21) 冷たくする。簡単にする。

教科書の説明は『みんな』の方が詳しいのでそちらを以下に載せる。

い-adj (〜く) →〜く

な-adj [な] →に

Nに

します L44 (『みんな 翻訳・文法解説』p117)

〜く/〜にします, as shown in ①, ② and ③, indicates that somebody “turns” something into a certain state.

①音を大きくします。②部屋をきれいにします。③塩の量を半分にします。

先の「Nにする」の変化の用法を「形容詞する」と一緒にまとめて説明している。どちらもL44の学習項目であり、一気に変化の用法を教えている。

3.3. その他の動詞と共起する「する」

その他の動詞と共に用いられる「する」として、以下では、「VたりVたりする」「Vとする」、形式名詞が被修飾語となる「Vることにする」「Vたことにする」「Vるようにする」「Vようとする」もここに入れ、初級教科書でどう教えられているか見ていくことにする。例は初出のものだけを載せる⁶⁾。

3.3.1. 「VたりVたりする」

『みんな』(L19) 休みの日はテニスをしたり、散歩に行ったりします。

『げんき』(L11) 韓国で買い物をしたり、韓国料理を食べたりしました。

この文型は様々な例が出されており、基本的な学習項目として教えられていることがわかる。文法説明はどちらも「～て、～する」との違いを述べながらその意味を説明している。ここでは『げんき』の説明が簡潔なのでそちらを載せておく。

(activity A) たり (activity B) たりする do such things as A and B 『げんき』 p255

3.3.2. 「Vとする」

これには、「新聞各社は検察が犯人を既に逮捕したとした」「マスコミは今後報道を自粛するとした」のような「引用」と、「お金がたくさんあったとする」「日本語が上手に話せるとする」のような「仮定」の用法がある(拙稿2013)。いずれも動詞は辞書形とタ形が可能であり、動詞は補文の中に収まる。両者の違いは主語が存在するか否かにあり、「新聞各社は[検察が犯人を既に逮捕した]とした」「マスコミは[(マスコミが)今後報道を自粛する]とした」のように引用内容を提示した主語が存在する。一方、仮定の用法では「[お金がたくさんあった]とする」「[日本語が上手に話せる]とする」のように、仮定した主体を主語として示すことがない。簡単に述べると以上のような文法的違いがある。

どちらの教科書でも教えられていない。引用の用法は、特に新聞などの報道関連の記事を読む際には必須の表現となるため、中級以降の読解には重要な学習項目となる。一方、仮定の用法は「～たら」を初級で学習するため敢えて提示する必要はないが、「仮定する」といった実質動詞よりは使いやすい表現であるため、

中級以降はやはり必要となるだろう。

3.3.3. 「V ることにする」

『げんき』(L23) この夏はアメリカに行くことにしようか。メアリーさんは一日に二回、犬を散歩に連れていくことにしています。

～ことにする『げんき』 p259

ことにする means “decide to do...” It follows the short form present tense of a verb.

ことにしている means “do something as a regular practice”, that is, you have made up your mind that you should do something and have stuck to that determination.

『みんな』には無かった。この文型は「Nにする(決定)」と比べると「～こと」が名詞修飾節になっているため、基本的には名詞か名詞節かの違いだが、学習者にとっては別に説明と例がある方がわかりやすいだろう。ただし、「V ことにする」には「変化」の用法は無いため、その点は注意する必要がある。

3.3.4. 「V たことにする」

どちらの教科書にも無かった。「私はそのレポートを自分で書いたことにした」のように、実際には自分でやっていないのにそうだったかのように取り繕うことを意味し、「レポート=自分で書いた」と見なすので「仮想同定」と考えられる。動詞はタ形になる。別の表現で言い換えるとすると、「私はそのレポートを自分で書いたと嘘をついた/偽った」「自分で書いていないのに、自分で書いたと言った」などが考えられる。当然ながら意味は同じではなく、「V たことにする」は、「言った」かどうかはわからないがそういうことになるよう何かをしたというような曖昧さを含む言い方である。初級に必要なだとは言えないが、中級以降には必要な表現である。しかし、もし『げんき』のように「V ことにする」を初級で教えているなら、それがタ形になるだけで「仮想同定」の用法になるのは便利のため、合わせて教えてもいいだろう。

3.3.5. 「V るようにする」

『みんな』 毎日日記を書くようにしています (L36)。

V dictionary form }
 V ない -form ない } ようにします L36 (『みんな 翻訳・文法解説』p69)
 This sentence pattern is used to express that one habitually or continuously makes efforts to do something or not to do something.

『げんき』にはこの文型は無いが、これによく似たものとして先の「V ことにする」がある。一方、『みんな』はこの文型はあるが、「V ことにする」がない。この2つは意味が似ているため、両方を初級レベルで提示すると混乱の可能性がある。それは、先の「V たことにする」よりも難しい。例えば「毎日日記を書くことにしています」と「毎日日記を書くようにしています」は、違う点は前者で「決意」が、後者で「努力」が強く示されている点であり、しかしながら決意にも努力が必要であり、努力にも決意が込められている点では違いがわかりづらい。

そこで、基本的な意味の違いとして「V ことにする (決意)」「V ようにする (努力)」を示す以外に、両者の違いをわかりやすく提示するには次の2つの方法が考えられる。1つは、「てください」の例を示すことである。「もっと野菜を食べるようにしてください (みんな L36)」「?もっと野菜を食べるようにしてください」, 「あしたは絶対に時間に遅れないようにしてください (みんな L36)」「*あしたは絶対に時間に遅れないことにしてください」, 以上のように「V ことにする」は他者に対する依頼の表現が取れない。もう1つは、タ形である。「野菜を食べるようにした」と「野菜を食べることにした」では、前者は実際にそれを実行しているが、後者は決意だけでまだ行動には移していない。タ形を示すと違いが見えてくる。

どちらの文型を初級教科書に載せるかの判断は使用例 (特に話し言葉) の頻度を調べてからでないとと言えないが、「V ようにする」の方が教えられるべきではないか。別の表現に言い換えると、「日記を書くことにした」→「日記を書くことに決めた (みんな L30, げんき L10)」となる。しかも、「決める」という動詞は教えられているので「V ことにする」が無くても表現が可能である。しかし、「野菜を食べるようにした」→「野菜を食べるように努力した (みんな無, げんき無)」となるが、「努力する」という動詞は教えられていないうえに、この表現は硬くて使いづらい。以上の理由で、どちらか一つだけを教えるなら「V ようにする」が適当と考える。

ただし、テイル形の「V ことにしている」と「V ことに決めている」では意味するものが異なる。そうなれば、「V ことにする (決意)」「V ようにす

る（努力）」はどちらも使える表現であるため、初級で両方教えるということがあってもいいだろう。

3.3.6. 「V ようとする」

「勉強しようとしてやめた」「秋が終わろうとしている」のように、何かを行う（何かが起こる）寸前の状態であることを表す。この文型はどちらの教科書にも無かった。「勉強しようと思ってやめた」「秋が終わりそうだ」など別の表現が可能のため、どうしても初級レベルで教えなければならないものとは言えない。

3.4. オノマトペと共起する「する」

オノマトペは日本語学習において難しいとされるが、教科書ではどの程度出現するだろうか。全ての用例を以下載せる。

『みんな』

(L39) 地震のニュースを見て、びっくりしました。パーティーに彼女が来なくて、がっかりしました。(L39 Reference Words and Information 気持ち) うっとりする、いらいらする、どきどきする、はらはらする、わくわくする。(L47 Reference Words and Information 擬音語・擬態語) ざらざら(している)、べたべた(している)、つるつる(している)。

『げんき』

(読L10) おじいさんは戸を開けて、びっくりしました。(L23) 誕生日のプレゼントが靴下だったら、がっかりしますか。お風呂に入ってゆっくります。(読L13) ニヤニヤする。(読L20) 男は猫を抱き、にこにこしながら主人に言いました。

気持ちの表現や状態の表現として、形容詞だけでなく、「オノマトペする／している」の有用性も考えなければいけない。『みんな』にあるように、いくつかの基本的な動作や感情に関わる表現をまとめて提示することは大切である。状態を表す「オノマトペしている」も形容詞を学習した後に関連項目として導入するといいい。「さらさら／きらきら／つやつや／ふわふわしている」など視覚や触感を表すものなら、具体的に物を持参しその見た目や触り心地を体験しながら学ぶとわかりやすいだろう。味覚や食感(あっさり／ぱりぱり／もちもちしている等)も食べるという体験ができればわかりやすくなる。この他、どちらの教科書にも掲載されていた「びっくりする」「がっかりする」は重要な動詞である。

3.5. 「する」文型のまとめ

以上の調査を表としてまとめた。表中の数字は、出現した例文の数（異なり数）である。○は例が存在したこと（その要素に共起制限がないため数は提示していない）、×は例が無かったことを表す。

表 初級日本語教科書の「する」文型一覧

| 文型 | 意味 | 『みんなの日本語初級』 | 『初級日本語げんき』 |
|-------------|--------------|-------------|------------|
| N をする | (動作) | 21 | 36 |
| | (遊戯・スポーツ) | 11 | 11 |
| | (催し物) | 7 | 4 |
| | (付帯) | 1 (ネクタイ) | 1 (ネクタイ) |
| | (様子) | × | 1 (~顔) |
| | (職業・役割) | × | 1 (家庭教師) |
| N がする | (その他) | 4 | 4 |
| | (知覚) | 5 | × |
| | (症状) | 3 | 1 (めまい) |
| | (雰囲気) | × | × |
| N とする | (決定) (同定) | × | × |
| N にする | (選択・決定) | 16 | 1 (何) |
| | (変化) | 3 | 1 (髪型) |
| N する | (値段) | × | 1 (三百両) |
| | (時間) | × | × |
| Adj. する | (変化) | ○ | ○ |
| V たり V たりする | (動作の例示) | ○ | ○ |
| V とする | (引用) (仮定) | × | × |
| V ことにする | (決定) | × | ○ |
| V たことにする | (仮想同定) | × | × |
| V ようにする | (継続的努力) | ○ | × |
| V ようとする | (行為の直前) | × | × |
| オノマトベする | (感情)(状態)(動作) | 10 | 5 |

4. 「やる」

「する」の類義語である「やる」は、話し言葉で使われ「する」のカジュアルな言い方として使用されることが多い⁷⁾。実際に日本語母語話者が「する」ではなく「やる」を使っていることも多く、初級で教えないわけにはいかない動詞である。しかし、類義語だが同義語ではないため、全ての「する」が「やる」に置き換えられるわけではなく、置き換えてはいけないもの（例、*散歩をやる）も

多い。そのため、教科書で教える際には注意しなければならない点が多いと考えられるが、実際の教科書ではどう扱っているだろうか。

以下、「やる」については掲載されている全ての文を抽出し、意味・用法の違いに従ってまとめる。「Nをやる」の意味・用法は10に下位分類することができる（拙稿2002）。

①動作（サ変動詞語幹・動詞連用形からの転成名詞、動作性名詞）

『みんな』（L26）盆踊りの練習をやっています。（L29）漢字の宿題はもうやってしまいました。夏休みの宿題は全部やりました。この仕事をやってしまいますから、お先にどうぞ。

『げんき』（L20）宿題は難しかったけど、～ないで、やりました。（L22）私にこの仕事をやらせてください。

②遊戯・スポーツ

『げんき』（L5）サーフィンが好きです。あした一緒にやりましょうか。

③催し物

『みんな』（L47）何かやっているようですね。

④趣味・習い事

『みんな』（L48）音楽をやります。

『げんき』（読L11）私といっしょにバンドをやりませんか。（L13）何か楽器をやりますか。

教科書に例文が無かったものは以下のとおりである（⑤以外は『やる』独自の用法）。

⑤役割・職業：「司会をやる」「医者をやる」

⑥放送・演劇：「ニュースをやる」「映画をやる」

⑦習慣の嗜好：「煙草をやる」「酒をやる」「麻薬をやる」

⑧加害行為：「奴をやる」「腹をやる」「豚をやる」

⑨病気の経験：「はしかをやる」「大病をやる」

⑩その他（単独で使われる）「やるね!」「やってられない!」「やるか!」

これ以外で教科書に見られたものは「やる」が単独で用いられる例で、以下のとおりである。

『みんな』(L26) 何をしていますか。(L30) わたしがやりますから、そのままにしておいてください。(L34) 先生がやったとおりにやりました。(L40) できるかどうか、やってみます。日本で何をやってみたいですか。やってみようか。(L48) お母さん、僕にやらせて。
『げんき』(私は) トムさんがやったと思います (L9)。

「やります do (『みんな』L26 語彙表)」「やる to do; to perform (～を) (『げんき』L5 語彙表)」とあるだけで、説明は一切ない。これでは「する」と「やる」が同義語だと誤解を与えてしまう。この他、『げんき』には「referring to musical instruments in general, やる and できる (for potential) are usually used. (表現ノート)」があるが、詳しい説明は他にはない。『みんな』の方が用例の数と種類が多いが、そこから読み取れるのは、「やる」が単独で使われること、「Nをやる」のNには「練習、仕事、音楽」があること、「催し物をやる」があること、「やってしまう」「やってみる」の表現があることである。『げんき』は用例も少なく、この他「やった！」などの決まり文句が紹介されている。いずれにせよ、どちらも練習や問題の中に出てくる表現であり、積極的に教えるのではなく、少しだけ例を入れるという形で示されている。「やる」には卑俗な表現も見られるため、すべてを初級で教える必要はないが、「する」との違いについては説明がある方がわかりやすいだろう。

5. おわりに

以上、『みんなの日本語初級』と『初級日本語げんき』において、最頻出語であり教育重要語でもある「する」と、類義語「やる」がどのように教えられているかをまとめ、問題点や提案をいくつか述べてきた。また、一方で教えられていないものが何か、それはどのレベルが望ましいかについても考察した。いずれも基本的でよく使われると思われる文型については導入されているが、その説明は十分とは言い難い。今回の結果は、「する」をどう教えていくかの基礎資料として位置づけ、これに加えて、表にある文型や表現のうち「どれが最も出現率が高いのか」を明らかにしていく必要がある。それを今後の課題としたい。

注

- 1) 初級日本語教科書における「する」の扱いについて調査・研究した先行研究は、管見の限り見つけることができなかった。
- 2) 本稿を執筆現在（2013年11月30日）、まだ第2版用の『翻訳・文法解説Ⅱ』が出版されていないため、初版を使用した。
- 3) 『明鏡国語辞典第二版』に基づき、名詞かサ変動詞か判定した。
- 4) 『げんき』では「下痢です」「便秘です」という表現を掲載。
- 5) 「隣で声がある」「隣で人の声がある」の省略だと考えられる。話し言葉で、くだけた表現になっているとも言える。
- 6) Nと共起する「する」の文型は、Nに制限があるためその種類を示すために全ての例を掲載したが、Vと共起する「する」の文型は、Vに制限がないため初出の例文のみを掲載することとした。
- 7) 実際は「する」にはない「やる」独自の意味用法があるため、「する」の俗な言い方であるとは言えない（大塚2002, 2006）

参考文献

- 大塚望（2002）『「する」と「やる」—非動作性名詞がヲ格に立つ場合—』『日本語科学』12, 国立国語研究所
- （2006）「行為動詞『やる』の俗語性」『創価大学日本語日本文学』16号, 創価大学日本語日本文学会
- （2007）『「する」文の多機能性—文法的機能—』『創価大学日本語日本文学』17号, 創価大学日本語日本文学会
- （2008）『「形容詞・形容動詞する」文の構造と意味』『創価大学日本語日本文学』18号, 創価大学日本語日本文学会
- （2009）「擬音語・擬態語と『する』の結合について—『だ』『やる』との違いを中心に—』『創価大学日本語日本文学』19号, 創価大学日本語日本文学会
- （2013）『「とずる」と「にする」の違い—意味・用法を中心に—』『創価大学日本語日本文学』23号, 創価大学日本語日本文学会
- 『初級日本語げんき（第2版）Ⅰ・Ⅱ』坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子（2011）The Japan Times
- 『初級日本語げんき（第2版）解答』坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子（2011）The Japan Times
- 『総合雑誌の用語 現代語の語彙調査』（1957）国立国語研究所報告12 秀英出版
- 『電子計算機による新聞の語彙調査（Ⅱ）』（1971）国立国語研究所報告38 秀英出版
- 『日本語基本動詞用法辞典』（1989）小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹編 大修館書店
- 『日本語教育のための基本語彙調査』（1984）国立国語研究所報告78 秀英出版
- 『みんなの日本語初級Ⅰ（第2版）本冊』スリーエーネットワーク編著（2012）スリーエーネットワーク 『同Ⅱ』（2013）

『みんなの日本語初級Ⅰ（第2版）翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク編著
（2012）スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説英語版』スリーエーネットワーク編著（1998）スリーエーネットワーク

『明鏡国語辞典第二版』北原保雄編（2010）大修館書店

（おおつか・のぞみ，本学准教授）